令和2年度 第1回午王山遺跡保存活用計画策定委員会

日時	令和2年8月20日(木) 13:30~15:30	場所	和光市役所 5階 503会議室	傍聴者	0名
出席者	委員 : ☒ 石川日出志委員長 ☒ 鳥飼八五良副委員長 ☒ 柿沼幹夫委員 ☒ 宮原俊介委員 ☒ 保科裕委員 ☒ 上原高明委員 ☒ 加藤昇委員 ☒ 磯博美委員 ☒ 関口泰典委員 ☒ 渡辺正成委員 ☒ 加山卓司委員 ☐ 細野文裕委員 オブザーバー : ☒ 埼玉県文化資源課 尾崎沙羅 事務局 : ☒ 大久保教育長 ☒ 結城教育部長 ☒ 茂呂 ☒ 鈴木 ☒ 条野 ☒ 相田 ☒ 江口 国際文化財 : ☒ 森屋 ☒ 加藤 ☒ 和田 ☒ 後藤 ☒出席者、☐欠席者				
議題	議 事 の 経 過 及 び 内 容				
1. 開会	事務局による開会の挨拶。				
2. 委員委嘱・任命式	大久保教育長より、委嘱状の交付。				
3. 教育長あいさつ	大久保教育長 挨拶。				
4. 自己紹介	委員、事務局、国際文化財の順で出席者の自己紹介。 大久保教育長退席。 和光市市民参加条例第12条第4項に基づき、審議会等の会議は原則公開することとなっている旨、及び会議要録の公開について事務局から説明。				
5. 議題	委員長が決まるまで結城教育部長による、議事進行。				
(1) 委員長及び副委員長の選出について	委員による互選の結果、石川日出志委員を委員長に、鳥飼八五良委員を副委員長に選出。 結城教育部長退席。 以後、石川委員長による議事進行。				
(2) 午王山遺跡保存活用計画策定の経緯について	事務局より、(2)(3)(4)について説明。 (2) 午王山遺跡保存活用計画策定の経緯について (添付資料に基づき説明) ◇事務局 ・午王山遺跡の史跡指定については、令和元年7月に文部科学大臣宛に意見具申書を提出し、国の文化審議会・文化財分科会の審議・議決を経て、令和2(2020)年3月に官報告示され、国史跡として指定されるに至った。 ・指定を受けた史跡名勝天然記念物は、保存活用の万全を期すため、計画を策定するよう方針が示されている。本計画策定の目的については、史跡午王山遺跡の本質的価値を明らかにするとともに、現状を把握し、課題を抽出することにより、将来に向けてそれを改善し適切な保存活用の方針、方法を定めることである。また、管理団体・土地所有者・その他の文化財保護行政に関わる利害関係者の方々が、史跡の保存及び活用に組織的に取り組むための共通事項を明示し、保存・整備の将来的方針を明らかにするものである。 ・計画策定にあたり、史跡午王山遺跡の保存、活用、整備にかかわる検討のため、本委員会において、令和2年度および3年度の2か年をかけて、ご審議いただく予定である。和光市の他の計画と整合を図りながら、策定を進めていきたい。				

<p>(3) 午王山遺跡の概要について</p> <p>(4) 計画書の内容及び刊行までのスケジュールについて</p>	<p>(3) 午王山遺跡の概要についてスクリーン資料により説明。</p> <p>(4) 計画書の内容及び刊行までのスケジュールについて</p> <p>◇事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料に、保存活用計画の目次案があるが、文化庁の指針に基づいた章立てとなっており、次ページ以降は、3章までの素案となっている。 完成されていない部分もあるが、1～3章は主に令和元年に刊行された、総括報告書から抜粋している。素案の中で、何かお気付きの点などがあれば、随時ご指摘をいただきたい。 4章以降については、次回以降の議題としていきたい。 1～3章についても、持ち帰りいただいて、総括報告書と照会の上、次回以降でもご意見を頂戴したい。 <ul style="list-style-type: none"> ・刊行までは今年度4回、来年度4回の委員会に加え、午王山遺跡や近隣史跡の現地視察を予定している。 ・今年度は計画全体の素案完成を目指していく。来年度はパブリックコメントの実施を予定しており、市民からの意見を再び委員会に持ち帰り、検討した後、計画を確定していきたい。 ・第2回委員会には、文化庁の調査官も参加する予定であり、日程調整をした上で確定をしたい。現状、10月の開催を考慮しており、9月下旬から10月頭には午王山遺跡の現地視察を予定している。 ・配布資料の最後に関連国指定史跡の整備状況を付けている。埼玉県内の遺跡・関東弥生時代の関連史跡全国的な弥生時代の環濠集落について、記載をしている。 資料の中で「唐子・鍵遺跡」となっているが、「唐古・鍵遺跡」と訂正をさせていただきたい。
<p>質疑応答・補足説明</p>	<p>※質疑応答・補足説明（「◇」は発言者、「・」は質問、補足説明 「→」は回答とする）</p> <p>◇石川委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目次案の3章に「午王山遺跡の本質的価値」という項目がある。これは総括報告書の中において、午王山遺跡の重要項目を幾つか明示し、それを以て国史跡指定の意見具申をした際に、記載したものである。午王山遺跡のポイントとして、6項目あるが、これらを改めて紹介したい。 ①荒川低地に臨む独立丘の上に立地した、主に弥生時代後期の集落遺跡で、居住域と墓域がセットで存在する。 ②弥生時代中期後半から後期後半までの集落で、後期中葉前後に位置付けられる環濠が巡っており、集落の変遷と環濠の関係性が見られる。 ③集落を囲むように溝が3条（2条+1条）設けられている。関東地方では類例がなく、近傍では、静岡県浜松市の伊場遺跡がある。 ④出土土器には、東京・神奈川方面の南関東と関連のあるもの、長野方面と関連のあるもの、静岡方面と関連のあるものがあり、様々な地域と交流・人の往来が確認できる。 ⑤住居跡の形、構造、銅鐸形土製品や、銅釧の出土といった点から、遺構・土器以外の遺物からも、遠隔地との交流が見られる。 ⑥以上のことより、弥生時代後期の関東を代表する集落遺跡の一つであるとともに、荒川流域における弥生時代の社会を解明する鍵となる遺跡である。 また、当時の人々の広域に渡る交流と、地域間関係の再編過程が把握できる。

質疑応答・補足説明

・目次案をとおして、これから委員会が何をやっていくのか再確認をしたい。
先ほど事務局から説明があったとおり、これは文化庁の指針に基づいて作成したものが、
本日はこの内、1～3章について取り上げていきたい。これらは過去の調査を踏まえて、
その重要事項のまとめとなっている。委員会としてももう少し充実させていくことも必要だが、
それよりも大切なのが、4章以降であり、午王山遺跡を現在から将来的に至るまでの保存活用計画の方針となる。
基本方針を検討していくことが、本委員会の役目ということになる。方針部分については現状白紙なので、
本日から回数を重ねていき、作成を進めていければと考えている。ぜひ皆様からご意見をそれぞれ頂戴したい。
その中には難しい問題もあるかもしれないが、それをどうすれば克服できるかと議論を重ねていく内に、
委員会が活発になるとともに、午王山ならではのユニークな方針を構想していくことができると考えている。

◇柿沼委員

・本計画で検討する対象は、将来指定を目指す予定範囲までということよろしいか。
また、今後の活用計画の中では、駐車場や便益施設などを作っていくことになると思われるが、
史跡指定地内に整備することは難しいのではないかと。関連史跡の資料の中に埼玉古墳群があるが、
ここでは史跡指定地の他にも都市計画公園として土地を公有地化し、駐車場等便宜施設を整備している。
恐らく、午王山遺跡においても、活用の段階となった際には直面してくると思われ、
指定区域外で広い範囲が必要になってくるのではないかと。市の振興計画や、
都市計画・教育計画ではどう考えているか。

◇事務局

→他の計画との整合性については、「第5次和光市総合振興計画」の「歴史的文化資源保存・活用」中で、
午王山遺跡が国指定を受けたことを踏まえた形で盛り込み、活用に向けた取組みについても記載する予定である。
都市計画については「都市計画マスタープラン」があり、まちづくりについては午王山北側で区画整理を行う。
本計画にも、政策課と都市整備課より委員を選出しており、和光市として策定に向けて取組んでいく。

◇石川委員長

・午王山遺跡を活用するためには、更に広く関連する史跡・景観を含めた、
総合的な計画構想を要望も少し含めて、柿沼委員は発言されていたのではないかと。
通常の史跡保存計画書では、史跡整備の範囲は史跡指定地だけでなく、
その周辺にも将来的に広がっていくものであり、それをどう進めていくかの方針を決めていかなければならない。
それを踏まえて、現状の部分だけを考えるか、周辺を含めて考えていくのか、
事務局からもう一度ご説明をいただきたい。

◇事務局

→ガイダンス施設などを作るにしても、独立丘上に作るわけにもいかない。そういった意味でも、
北側のまちづくりを進めていく中で、本計画にもそういった要素を盛り込み、全体的な形で進めていきたい。

◇柿沼委員

・今の段階ではそういった回答になると思うが、今後計画を進めていく内に、駐車場を作るスペースや、
アクセスはどうか、といった問題が必ず出てくることになる。
ある程度具体性を持ち、担保を得られる形で都市計画や政策決定などに盛り込んでいけるかも重要ではないかと。

質疑応答・補足説明

◇石川委員長

- ・現在できていない事柄でも、問題を整理し、それに対してどう対応していくのか。
その辺りの道筋を示していくべきであり、本日その辺りについても確認していくことが必要になる。

◇渡辺委員

- 今現在、市では「第五次総合振興計画基本構想」として令和3年度から10年間のにわたる構想を作成している。
その中で、「歴史的文化資源の保存・活用」という大きな政策を掲げている。
この政策の中に午王山遺跡についても取り上げている。
市では、午王山遺跡の国史跡指定を踏まえ、保存活用に向けた取組みに協力をしていきたいと考えている。
この大きな方向性に従い、委員会のご意見を踏まえて進めていくものと認識している。

◇加山委員

- 都市計画に関連する部分について、今年度と来年度にかけて、都市計画マスタープランの改訂を考えている。
現行の都市計画マスタープランでも、午王山について「緑と遊水地の保存と育成」「午王山特別緑地保全地区」という点で位置づけている。将来的な史跡対象地内で、都市計画上、保全をする区域が一部含まれている。
それ以外にも、「市民緑地」という形で、保全を進めていく地域が含まれている。
緑地の保全計画という観点で午王山遺跡を取り上げており、遺跡として触れていない。
今後どのような形で細部を記載していくかは、本委員会と連動しながら考えていきたい。
また、北側区域の区画整理事業に関して、これから事業認可に向けて、
地権者とヒアリングを重ね、区画整理事業を立ち上げていく予定である。
面積としては約38haを区画整理事業として計画している。早期事業認可に向けて進行している段階である。

◇加藤委員

- ・今回指定された面積は13,425.24㎡とのことだが、和光市の市有地は2,400㎡あまり。
今後、市が民有地を計画的に買い上げて範囲を広げていく方針なのか。

◇事務局

- 指定範囲内の地権者に対しては、地権者の都合に合わせて買い上げを行う方針である。
指定地の範囲に関しては、地権者のご理解をいただき増やしていきたいと考えている。
それとともに、先ほど話があったように、全体的なまちづくりの中で保存活用を進めることを考えている。
史跡指定範囲の中に資料館やガイダンス施設を建てることはできないので、範囲外のアクセスのいい場所に施設を設けられればと考えている。駐車場の件も含め、指定範囲の隣接地のまちづくりと整合性を取り進める。
この計画の次ですぐ公園になるかというそうではなく、時間が必要と認識している。

◇加藤委員

- ・地権者への史跡指定に関する説明はどのようになっているのか。
地権者は指定について、そしてそれに伴って土地利用に制限がかかることについて、納得しているのか。

◇事務局

→指定によるメリット・デメリットと考えられる点について、説明を行っている。
そういった点をご理解いただいた方が同意され、史跡指定を受けている。

◇石川委員長

・この保存計画は、史跡の指定地・未指定を含め、将来活用していくための道筋をつける、
基本線を示すものだと考える。ぜひ今後も率直なご意見をいただきたい。

◇柿沼委員

・遺跡の管理方法について。現状変更に対する記載が見当たらないが、どの程度の現状変更は認める・認めないについて
検討項目として加えるべきではないか。現状を変えない限り遺跡は保存できる訳であり、その規定は重大なもの。

◇事務局

→目次案の6章「史跡の保存（保存管理）」の部分で、文化財保護法第125条第1項の現状変更の提言を、
委員の皆様と次回以降の委員会で協議を重ねていければと考えている。

◇石川委員長

・指定地外においても、史跡を構成する部分として、それぞれの取扱い方が一覧表で明示される。
それを計画書の6章において扱うということが事務局からの回答と認識した。

◇保科委員

・先ほど、ガイダンス施設という話があったが、個人的にはミニ博物館というような形にしてほしい。
研究職を配置し、今後も発展を続けていけるものにしてほしい。
腰を据え、長期的な研究が行えるような博物館的なものを作り、研究職を置く形が良いと考える。
もう一点はアクセスの問題。少し駅から遠いが、途中に様々な公園などがある。
それを組み入れ、駅から午王山遺跡への道にハイキングコースを作り、その付近に関連施設を設けるといった、
もう少し広い範囲で計画してほしい。
最後に子どもたちが気軽に足を運べるような環境にしてほしい。定期的な子ども向けの催し物を作り、
考えながら、史跡公園としての整備計画を進めてほしい。

◇宮原委員

・街並みの景観という観点から意見をさせてほしい。
遺跡ということで、当時いたヒトは当然誰も残っていない。
城郭などの立体物であれば、そこに人々の注目を集めることができるが、遺跡の場合は、
フラットな、或いは少し下がるものであるため、街並みの景観の中では意識がしにくい。
遺跡を見せるということからすれば、上手く下を見せる・遺跡を見下ろす工夫が必要となる。
そうしなければ、一般的な公園と何ら変わりがないものになる。例えば、埼玉県所沢市の
「ところざわサクラタウン」に、「東所沢公園」というものがある。基本的には一般的な公園と変わりはないが、
夜間に照明を用いることで、周囲の景色を無くし、公園そのものを目立たせることができ、
人々を上手く公園に引き寄せることができる。午王山遺跡についても、周りが消えた時に、
人々の生活を上手く見せることができれば、景観デザインの面から、公園の形が際立つのではないかと思われる。
最後に、二つのポイントを挙げる。一つ目は「共感」。市民が午王山遺跡にどう共感するか。
例えば、公園内を歩いてもらうことも大切な一歩になる。

質疑応答・補足説明

◇宮原委員

二つ目は「価値」。午王山遺跡ならではのものを考えていきたい。

今情勢下では、人々が公園を利用するケースが増えている。本計画が進んでいくにつれて、地域の身近にある公園として、とてもクローズアップされるものとなっていくのではと考えている。

◇鳥飼副委員長

- ・区画整理事業と併せて考えた方が良い。

斜面を指定範囲に含むという話があったが、これはすぐにはできないと思われる。

区画整理を視野に入れて、その周囲をまずどうするかといったことを考えていった方が良い。

現状はどこが遺跡か分からない状態となっており、そこを最初にどうするか検討すべきではないか。

周囲の土地にも地主がおり、時間は掛かると思うが、遺跡だけでなく周りのことも冷静に考えていきたい。

◇石川委員長

- ・午王山遺跡の保存活用計画ではあるが、遺跡だけを視野に入れて計画を作ったのでは不十分である。

遺跡だけでなく、景観や北側斜面の森林などを視野に入れ、丸ごと活用をしていくことを考えることが重要。

遺跡を見に行く人ではなく、午王山に行く人が多数派となる。そのあたりを今後考慮してほしい。

- ・最後に、事務局への要望として、2か年のスケジュールを提示してほしい。

全体のスケジュールがなければ委員会の進行も難しいので、重ねてお願いをしたい。

6. その他

今回の午王山遺跡保存活用策定委員会は、10月中旬から下旬を予定している。

議事及び日時が確定次第、委員の方々へご案内する予定。

現地調査については、第2回協議会に先立ち、委員の方々に史跡指定地の現状について、ご確認をいただきたい。

日程については、9月下旬から10月上旬に日時が決定次第、ご案内する予定。

7. 閉会

石川委員長より閉会の挨拶。